



# 「江戸から東京へ」通信第1号

平成23年6月24日 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

## 「江戸から東京へ」説明会

5月27日 多摩社会教育会館ホール

5月27日（金）午後2時から、立川の多摩社会教育会館ホールにおいて、東京都における日本史必修化と東京都独自の日本史科目「江戸から東京へ」の説明会を実施しました。当日は都立高等学校の全課程から地歴科担当の先生方を中心にお集まりいただきました。



会場の様子

説明会では、1点目に日本史必修化の趣旨と「江戸から東京へ」の開発についてと題して、東京都として日本史必修化を導入した経緯と、独自科目を新設したねらい、独自科目教科書「江戸から東京へ」の編集方針を説明しました。途中ニュース映像を交えて、マスコミでの取り上げられ方も紹介しました。

2点目は「江戸から東京へ」の授業での活用方法と題して、1単位で授業を実施する場合の授業内容の焦点化の例を説明しました。

3点目は、「江戸から東京へ」における地理的視点と題し、独自科目の重要な方針の一つである「地理的視点」がどのように取り入れられているかを説明しました。また、校外学習での活用事例、博物館等との連携についても具体例を紹介しました。

最後に、教育課程編成基準・資料「江戸から東

京へ」を説明するとともに、教育課程に位置付けるにあたり、教育課程特例校申請及び総合的な学習の時間の減単位等についても説明いたしました。若い先生方の参加も多く、メモを取りながら説明に熱心に耳を傾ける様子が見られました。

## 多摩図書館との連携

当日、途中の休憩時間と説明終了後に、多摩図書館による16ミリフィルムの上映が行われました。生糸を運ぶ道として八王子鎌水と横浜をつないだ街道の歴史を描いた『絹の道をあらく』、関東大震災の悲劇を描いた『52年目の記憶』の2本でしたが、いずれも教科書『江戸から東京へ』の内容と関連する資料として紹介され、授業等でも活用できる興味深い内容でした。

また、ホール入口のピロティでは、多摩図書館が所蔵する『江戸から東京へ』に関連した資料が展示され、手にとって熱心に閲覧する先生方の姿が多数見られるなど、たいへん好評でした。

今後も、中央図書館や江戸東京博物館との連携を紹介していきます。



「江戸から東京へ」で活用できる貴重な資料が展示されました



展示された多摩図書館所蔵資料の閲覧する先生方

# 協力校の実践から

武蔵高校 6月2日(木)

平成 23 年度の日本史必修化協力校における『江戸から東京へ』の実践事例を順次紹介していきます。

1 校目は**都立武蔵高等学校**での実践事例です。

武蔵高校では総合的な学習の時間を減単位し、第3学年で「江戸から東京へ」を1単位で実施しています。



外山先生の授業の様子

担当の**外山至生主任教諭**は、「地域からの戦後史」をテーマに、この日は「**26-(1) 占領下の東京**」の授業を行いました。

導入として、124 ページの「学びの窓」の写真の細部に注目させ、補足説明を交えながら「アメリカ兵の様子には緊張感が見られないこと」、「制限速度標識に2種類の表示があること」等に気づかせ、占領下の日本の様子に対する関心を高めていました。その後、「江戸から東京へ」の教科書と共に、

教科書に沿った自作プリントや板書を有機的に組み合わせて基礎的・基本的事項の習得を図っていました。授業のまとめにおいては「極東軍事裁判でインドのパル判事が被告全員の無罪を主張した理由は何か」等について、125 ページのコラム「東京裁判」を読み取ってまとめさせました。生徒との問答を重ねながら展開していく授業が印象的でした。

**清水大介主任教諭**が担当したクラスでは、「**4-庶民の食事を支えた江戸野菜**」を活用して「農業の産地形成」という地理的視点を組み込んだ授業が行われました。

「学びの窓」の江戸野菜を切り口にして、江戸野菜産地を分布図で説明したのち、チューネンが提唱した農業の産地形成モデルを紹介し、改めて河川交通に着目させて江戸野菜の産地形成に対する理解を深めました。授業終盤には大学入試問題に挑戦させることで、授業内容の定着を図りながら受験に対応できる学力を生徒に意識させる授業となっていました。



清水先生の授業の様子

また、武蔵高校では5月2日(月)に、『江戸から東京へ』と江戸切絵図を活用した**遠足**を実施しました。「江戸の町並みと現在の町並みを比較検討し、その歴史的文化や発展について理解を深める」ことを目的として、第2学年の生徒が30の班に分かれて教科書と古地図を手にフィールドワークを行いました。遠足のしおりには守屋校長先生から「武蔵 71 年の歴史にあっても、この遠足は、最も優れた企画の一つであるように思われます。(中略)既存の概念や価値観に縛られない瑞々しい視点からの観察を一冊の報告書として集約する中で、東京の成り立ちや今後のあるべき姿を、皆さんなりに新たに構築してみてください。」と言葉が寄せられています。各班は遠足終了後、教科書巻末の「江戸東京を歩く」を参考に、A3判1枚で報告書を作成しました。



右：「報告書」の一部